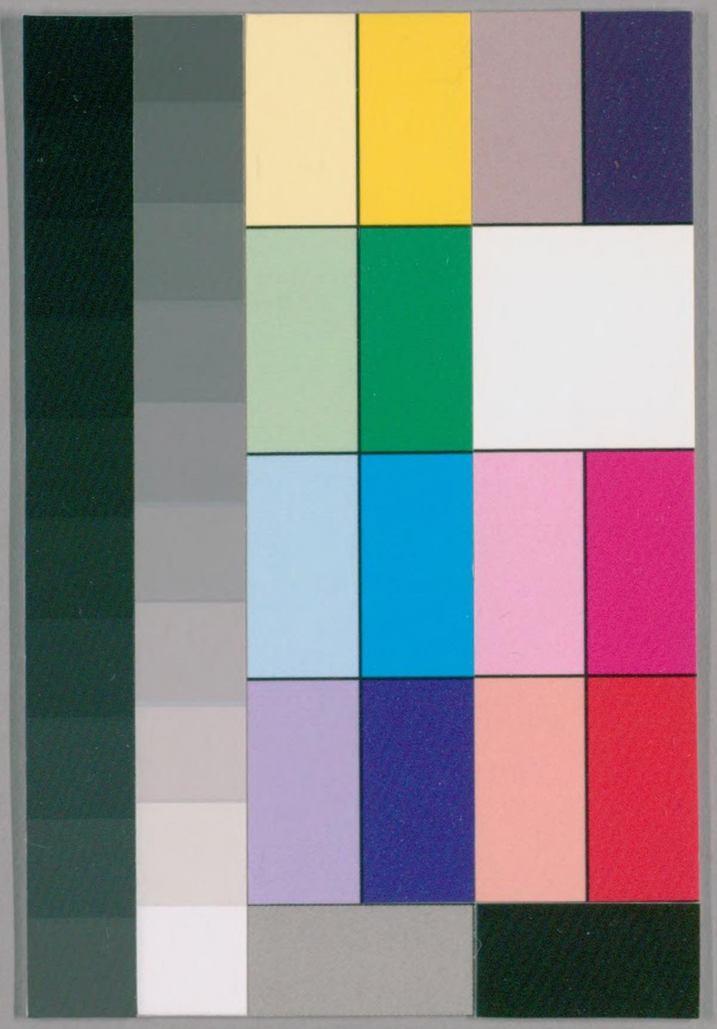
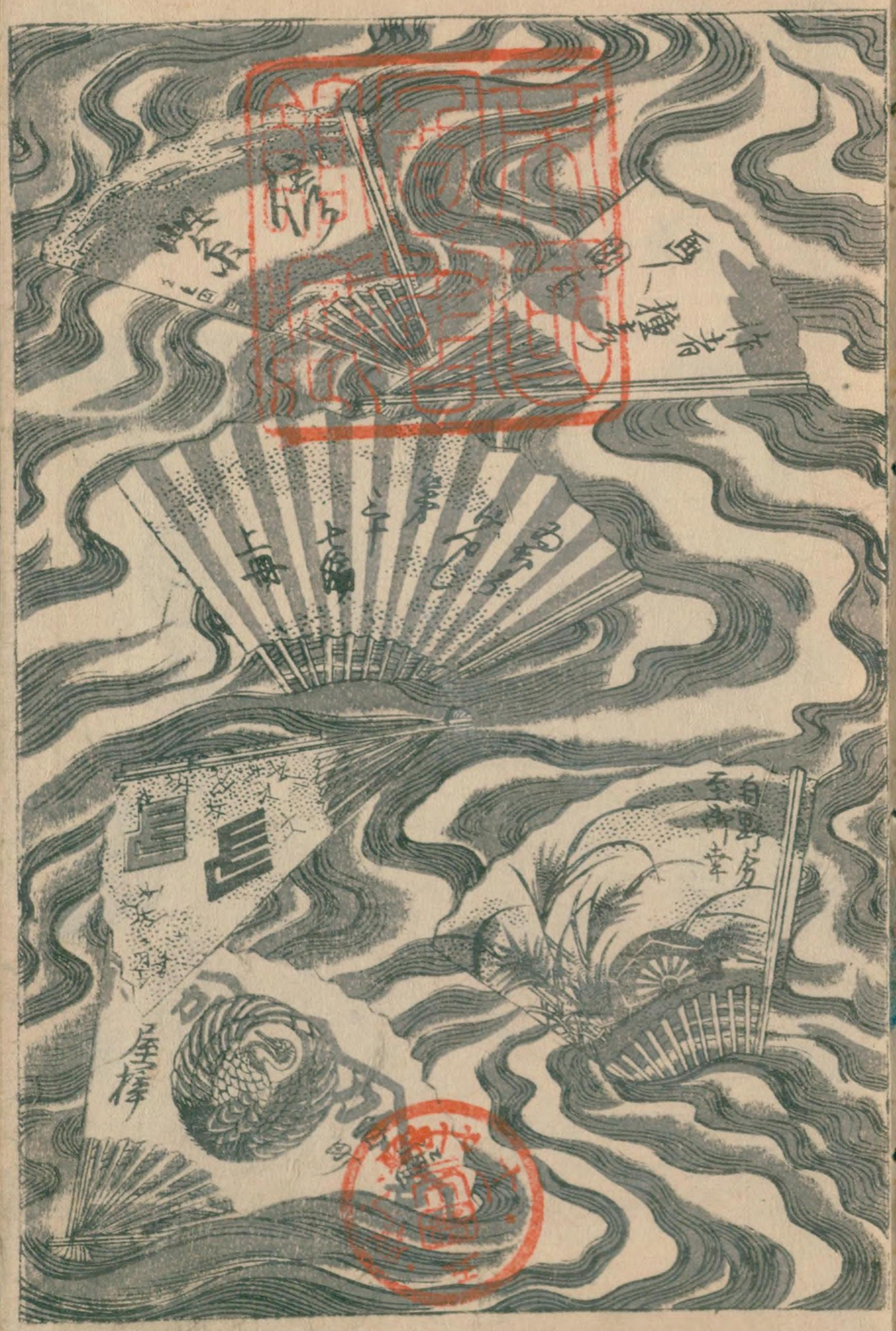


国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703

ガラス使用

三十七編上

三十七編下

国立国会図書館　　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号　特1-2703

ガラス使用

田舎源氏第三十七編

國貞画

種彦作

仙鶴堂

壽梓

下冊

初午の鯛魚。鯛殊更そゞ。節分の赤鰯。鮮をのざ笑ふ。吹革祭ふ乳柑子を投る例の絶てなれば。蜜柑や我りの顔ふ誇や。長芋の品たゞきもかつべき衣るければ。後の月ふ家並の下座ふこそ美者べられ。是等の類ふ時ゝ節ゝ自然ふ浮る勢ひそ常の位ふかくそ。これを思ふ大晦のそゝ行づるそ松やく竹やくのせそてるき声ふかそろそ白酒一枚給草ざりと呼の紙炒だ心も春めく其をりそ一夜明れが扇ゝ白酒のふれんふあるらめ。是初午の鯛魚そ書籍の鯛ふまさらんふ時。それを許手習ふ揃への菓さく頃から春の新板。おそれさの又おられさり。揚が散そ三月の菰巡賣のふ人更ふるく。作者も七月毛氈の色揚の請ざりそ頼人のるやうふおりるべ即分るの赤鰯歯ぎまり嚙でも田作よぶふあだ廃物とるるべ

柳亭種彦記

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703

ガラス使用

特1 2703

松風
けふよりや
なるらん

冷泉院の比
あかがりの
足利義植公

をふるき
そでの
みよ
ろ
きづの
ふるき
なのとそ
なりぬる
ろくみよ

そーれ
こゆきつもるる

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』 請求記号 特1-2703

ガラス使用

三十六へんつゞき

[illegible]

24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

[二の巻より]こゝろさしふかくてかよひそめしかどもいまだ
むつまじきこゝろのほどもあらはれぬうちにかくわかれ
をなげきゆきあひしのちもなほ光氏のよくゆきあひ
いのちぎりしことのはをわすれずおもひいでたまふ
おりおりはいとゞあはれまさりつゝ
うつくしきこゝろばへのみえたまひしを
ふりすてゝいでたまひしあかつきのわかれ
のなごりのかなしさをおもひいでたまふに
ことわりにいとゞしのばれたまふ
[左へ]
[左へ]
[左へ]

大井川の光景 扇流しの事 雍州府志 九巻ニ見ヘテ

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号　特1-2703

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

つづき

種彦作
國貞画

上冊光氏小でまろわおぞうのつづき

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

つゞき　こゝろくの
のひげれがやうこのり
のごもふもんーそ
光氏きこゝいるふ
どゝろまもぢん
おひそくのこまひ
け先年かゝこと
ありてわどろく今の
あつけんあらくかるり
のひーがスるふぞあ
きそーのてるのろと
いへ一人りがさそゝ
ようくのやくもまも
まそゝそのふべき
あんそゝるおい
るろるべー宗全
どきのむやんゝくおの
やうるこでいるいろと
ひがゝてろえーそ
玉ゝずゞとゝとい
ムつゞざりけり
○ところでといあのきこふ
まそひこをりのふ
んのうちかちふ
そうこれいかゝこと
とかまりこゝろ
るりーとそまぐふ
むりくへるぐらんの
のあーろべー

ひろまちへいやくこれも
こゝよのまへのあやこん
ともおそれありこゆのかく
ゆもうろかくこゆそこぐ
だきあがあやまりるれば
光氏ぎこのそんふまろせそ
おろんとこれありてそこらふ
人もあーぎれがひとろ
んゞさこめしへ
それきさこぎこの
えゞめろり
○かくてのちふ光氏の
氏中をひきつまそ

上ふ　ゝのとこゆて
かーこのこゝろへ
こゆつくをれゞふ
ゞあはこ
それを
おも
へば
これへ
まあた
廿
光氏
ぎこふ

そもくきこの
玉ゝをこ
うぎぬし
すぐゆをふ
あのふ
ろのこそれ
いこふ
ろるろー
そまこ
それがなすめ
なあん私まの
さぎゆと
るのくあ
るぐろゆらきき
のうふからくの
おがさんこをを
かゞゆひんん
子とひろろゞ
あさまひーぐ
それゆでへ又
あんそひうーふ
きゆきこまさん
ころろろくせんろこ
るさふるゞ
のこととあろさゆ
ゆひーものるろろ
さまれがなへてく
ぎけるきこゝとゆもあろれ
どうんふそんを
右へ

玉ゝぎとこゝひふ
あんこをふくるそこく
まゆんこと日ゞえろひが
十六日ひりんのすゞめ
よきゝ日ろろさのすゝふ
小でまろもゞゞど
まこうくろくろ
ゆふあのきよをりろもゆ
よろりこのこをけがこうゞを
もきこるべーあこそのと
そもひそふふれへのひ
きろ甘そもきつれが
ふゞめてあひろゞふこく
ゝくゆのふべーなど
こまろるゞて人ゆふゆを
あゆとのふとゆふかく
ろろ
つけて
ゆ

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

歌國貞画 柳種彦作

つぎは　やまとうたこれなやまとも
ぞうろうづけんべりうんなりづうい
字でうくといあるさとりーとやまを
くまでそのをまつのてをそうろうの
つときとうくろんのちおとをを
このこれのくうまそうと
ねとをおもりて
よろこび　ねうろ

ひやうふるとの
うしろのそこあるさまるうも
をうーさうろほて
表べくおやのうろも
うろんそむきりのいとそくと
もべりのそこをくのきてそうをくへ
うちぎきもあんおりてのうとてきそも
おんろりーのうれがそぐちとおれくろ
さろるとやくそおまへはの色男さをよ
ゆそのろどろんいようくきとえそ
りうえんおおれるニャーレぶそるふと
をろかきいてんこれもえのうきろろ
みりうとのひとぶれてものおろ
りーきとうおいおうこのおすあを
おろこそよろづふきされてくをり
るれとさでうちひきのてもとび
りのふもを、あきてろけれとうきよの人い
うこをぐむきめのたちをくえさありとさと
やうふうーさうて、ちりあろろふまろんるさど
ムぞろれのひけうとぞ
浄車の巻之ろり

美艶仙女香
黒油美玉香
右両品ともによく
精製仕候間御用の程奉希上候
南伝馬町三丁目　坂本氏

信楽現在ま
路木尼
浦園を見る
そうてたろりの
間の荘言
此八編の
えどりあ記も

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703
ガラス使用

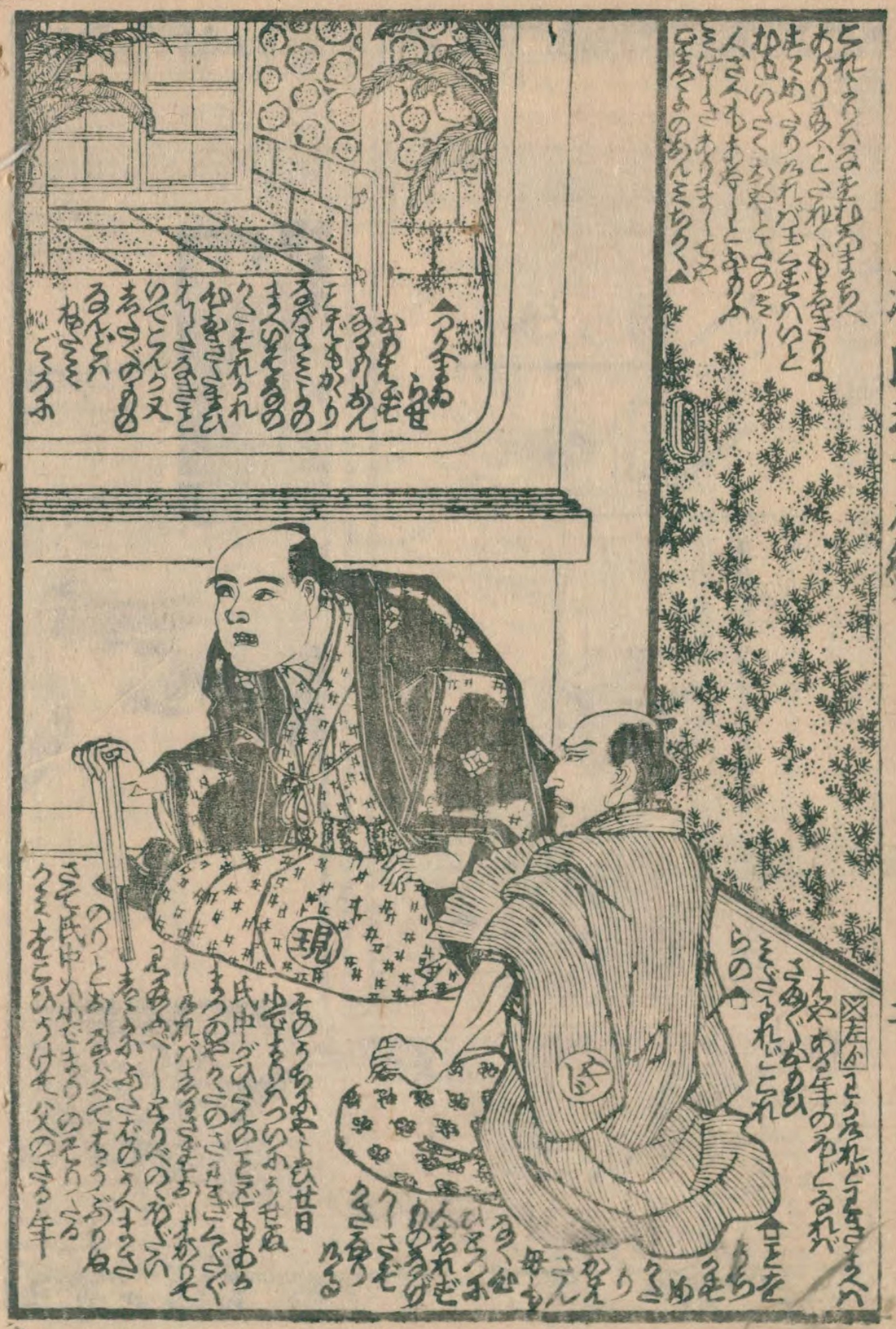
延宝四年撰　至来集　定真の句は「名ゆも似ぎと月こそ乳九行燈」とのへる歌仙の謡をやつし名ゆも似ぎと其形を雛ぜ又近く安永九年の作　隣家夜話の序は「女郎の実と玉子の四角へ色物と歌ひしふ行燈へ九く四角る五徳が出来重宝とのひし云云」と見えて延宝より安永迄其百余年暗合の同論わり。今へ座敷の行燈へ九い物のやうふ心え箱火鉢へ九く四角る物と定まりの専ふ流行れ目ふ到し故ぞ大将髷を海老の尾のやうふ割しふ亀戸の宝ふ初めの程へ異る髪とおのれまで思ひ〳〵ぐ絵る羽子板押絵の類開帳庭の納め物又吉原の軒燈籠。団扇のとより煎餅形。悉此姿を写せふ見到し怪き髪の風ともいを色へ前よりひげくる程二箇器の論の止しふ是同。画の流行せ功るべし。それふひられて自然拙作も源氏とのふ名ゆも似ぎとの誹をもうすらぎのふく末まで續んと角る五種を強云へは假我身勝手を如斯

柳亭種彦誌

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号　特1-2703

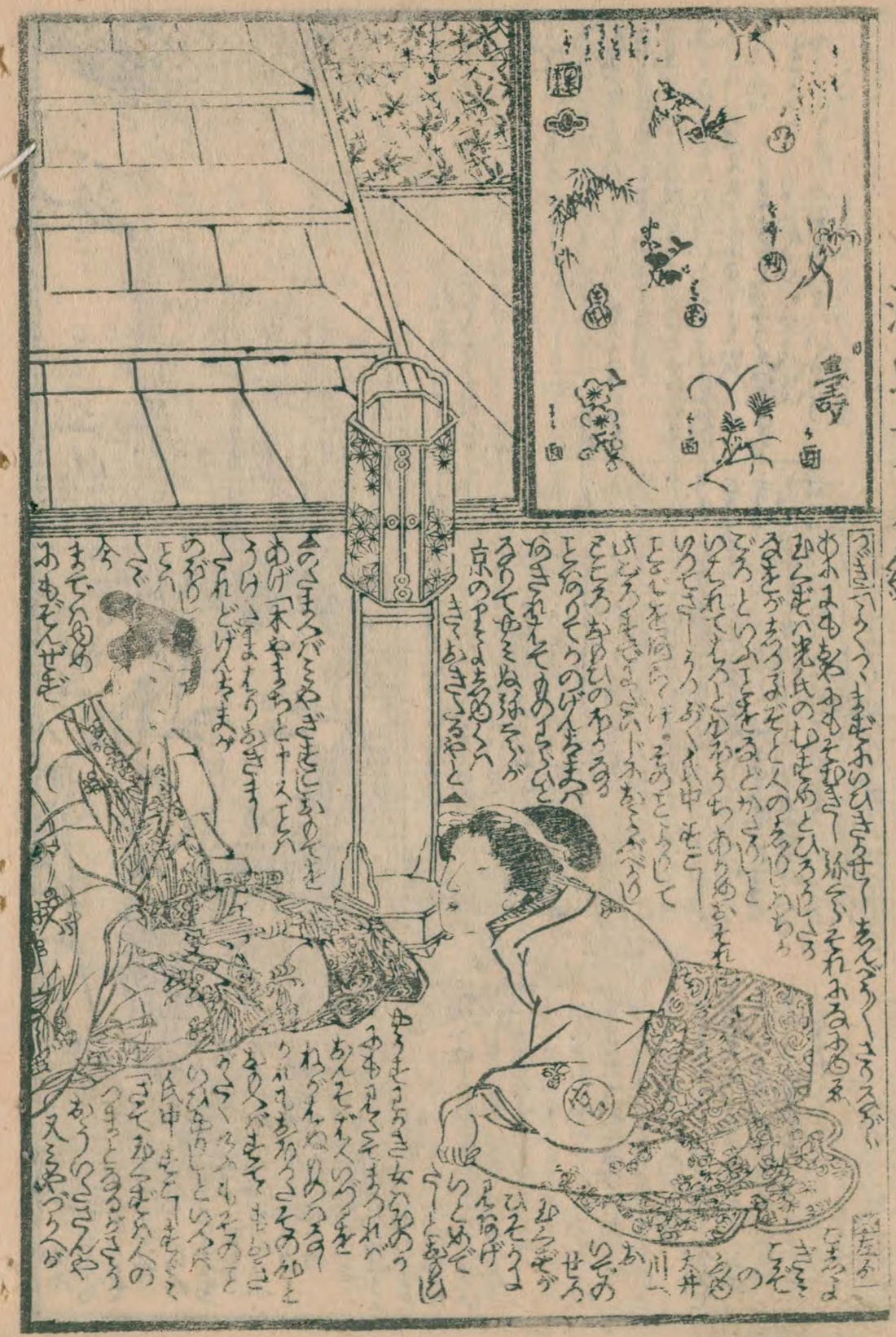
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

風情八景源氏画種彦作

こんれんの
のこりゆう
ふらんくやせえ
くやとあんーどろ

はかなめとまでの
おりろい

やき焼

松たけ

そば

油

名人名香

古もの香をも
のめく鑑賞不
仕合の
お松ごぜ沢山な
用事と紹介申上
来檢事務る町
二ノ目
松吉氏製

柳鳥酒肴
古國
用捨箱
三勝出招
作もろのか参ろ
作阪入吉秋作

ゆきの夕風さむさむき
かも川つもるきさへくと沼二身ふ
きめられかのあぐらきのけんもん
あそぶもるくてきさらのねふをりうち
ふけるふくそもふむふんのも
ものそいそぐ沼ひぼこぎめそ
そもへちぶけふひきまよりものれ
さのまのもりそもふくふかとまるを
もりかこぶけさ廿日のりそうそさまし
ばかもぐらそろありくれ
たくふるのこのもあんこい
つまれせ
まつくまげふ
つそ廿ふ
ふを
あの馬
とまえ
のお
猪二ろ
うち

一左ム おるこれきげかどのくろあ
ゆきあてうちんのうれが
じぞんるいをそのきさ
とそぎぐまもとさ
ことをまねひてしよ
きう廿まあら
廿ふまぐるま
めりくこの
ふりづま
をちものこと
くなそてこさてもも
今のあもふ廿春りせ
むりふかえるうぐぎ
まきこちまんふそせそ
よろこんで✦

玉蔕
祖母
の服脱
ぬぎ
茂の社ふ
まつ

✦もらえ
くよりまう
今日のあの氏中
さまと五ぐさる
のおぐくねさき
とかものみやーろ人
あまりあのまをなを
つまてもちとも
おつきこの井中
あそけれどかくり
ぐけふ五人ずさん
えーあそみやこおいそのとさ つぎ二

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

柳亭隨筆
用捨箱
三冊影成

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

（左）男女の子どもまり
（十）こゝの四つおとり年のころ
（十）こゝの四つおとり年のころ
（十）こゝの四つおとり年のころ

特1
2703

國貞画 種彦作

一色ヨヌ京泥廉の女 浄書
巻衣 上冊柳枝
下冊金川

国立国会図書館　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号 特1-2703　ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『修紫田舎源氏』　請求記号　特1-2703

ガラス使用